

インフルエンザ定点当たり報告数

インフルエンザは定点把握対象疾患であり、医療機関の中から選定し、協力していただいている定点医療機関からのみ患者数が報告 3 ならば、1 つの医療機関で 1 週間に 3 人のインフルエンザ患者を診療した、ということになります。

この数字が 1 以上であれば、その地域は流行レベルに入ったことになり、10 以上なら注意報レベル、30 以上なら警報レベルの流行となります。警報が解除されるのはこの数字が「10」を切ってからです。

○2019-2020 シーズンの全国の定点報告（国立感染症研究所調査）：

2019 年第 38 週（9/16-9/22）の定点当たり報告数が 1.16 となり、全国的な流行開始の指標である 1.00 を超えました。

2018 年は、第 49 週で定点当たり報告数が 1 を超えており、2019 年が例年より早く 1 を超えたことから、国立感染症研究所による報告が 38 週から開始されました。39 週以降 1 未満となり、42 週で 0.72 まで低下しましたが、43 週（10/21-10/27）0.8、44 週（10/28-11/3）0.95 と再度上昇しておりました。45 週で流行開始の指標である 1.00 を上回りました。

2020 年第 3 週の定点当たり報告数は **16.73**（患者報告数 83,037）となり、前週の定点当たり報告数 **18.33** より減少した。

都道府県別では高知県（26.58）、福井県（25.81）、**長崎県**（24.87）、愛知県（24.06）、**福岡県**（23.55）、**宮崎県**（23.39）、岡山県（22.61）、愛媛県（22.54）、**大分県**（22.52）、**鹿児島県**（22.13）、静岡県（21.43）、香川県（21.40）、**沖縄県**（21.03）、群馬県（20.87）、**佐賀県**（20.59）、**滋賀県**（19.83）、**岐阜県**（19.63）、千葉県（18.65）の順となっている。国内のインフルエンザウイルスの検出状況をみると、直近の 5 週間（2019 年第

51 週～2020 年第 3 週) では AH1pdm09 (93%)、B 型 (5%)、AH3 亜型 (2%) の順となっています。

詳細は国立感染症研究所ホームページ

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>) をご参照ください。

○2019-2020 シーズン 長崎市、長崎県の定点報告状況 (長崎県感染症情報センター報告より) :

2020 年第 3 週 (1/13-1/19) のインフルエンザ報告は、長崎市 (25.06)、長崎県 (24.87) で、第 2 週 (1/6-1/12) 長崎市 (18.12)、長崎県 (20.99) と比較すると、長崎市、長崎県ともに増加しました。

いずれも 流行レベルの指標 1 を超えておりました。 50 週以降の報告数が 10 以上 (注意報レベルの流行) となっています。

長崎市は、40 週、41 週、42 週と流行レベル (1 以上) となりましたが、41 週をピークに減少し、43 週では 1 未満となりました。しかしながら、44 週では、0.94 と再度増加し、45 週で 1 を超えました。

◎長崎県は、39 週以降 1 未満となりましたが、長崎市が 40-42 週で 1 を超え、流行レベルとなりました。43 週で 1 未満となりましたが、45 週で 1 を超えました。さらに、50 週以降で報告数が 10 以上 (注意報レベルの流行) となりました。 今後より注意が必要な状況になりました。

(長崎県感染症情報センターHP より抜粋、1 部改変)

インフルエンザ等の感染予防のために、十分な休息、手洗い、うがい、マスクの着用等を心掛けてください。インフルエンザが疑われる症状として、のどの痛みや鼻汁・鼻づまり、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身のだるさ等がみられましたら、早めに医療機関を受診してください。